

平成30年度
第1回野田市福祉有償運送運営協議会次第

日 時 平成31年 3月14日 (木)
15時から

場 所 市役所5階511会議室

- 1 開 会
- 2 議長の選出について
- 3 議 題
 - (1) 野田市における福祉有償運送事業の実施状況について (公開)
 - (2) 道路運送法第79条の規定に基づく新規登録について (非公開)
- 4 閉 会

議題 1

野田市における福祉有償運送事業の実施状況について

1 移動制約者に係る外出支援施策及び福祉有償運送事業の実施状況について

(1) 移動制約者の状況

野田市における移動制約者（要介護等認定者や障がい者など移動の制約がある者）については、平成28年4月1日現在で8,594人であったものが、平成30年4月1日現在では8,734人となっており、対前年比は、平成29年4月1日現在で0.70%増、平成30年4月1日現在で0.92%増となっています。

【移動制約者の推移】

| 区 分 | 28年4月1日 | 29年4月1日 | 30年4月1日 | 備 考 |
|--------------|---------|---------|---------|--------------------------------------|
| 要介護・ 要支援者 | 3,689人 | 3,505人 | 3,569人 | 要介護等状態の居宅 サービス利用者 |
| 前年比 | | △4.99% | 1.83% | |
| 身体障がい者 | 3,172人 | 3,323人 | 3,170人 | 視覚障がい者及び肢 体不自由者、内部障が い者で3級以上の方 |
| 前年比 | | 4.76% | △4.60% | |
| 知的障がい者 | 750人 | 765人 | 844人 | 最重度・重度・中度の 知的障がい者 |
| 前年比 | | 2.00% | 10.33% | |
| 精神障がい者 | 983人 | 1,061人 | 1,151人 | 精神障害者保健福祉 手帳の所持者 |
| 前年比 | | 7.93% | 8.48% | |
| 合 計 | 8,594人 | 8,654人 | 8,734人 | — |
| 前年比 | | 0.70% | 0.92% | |

(2) 外出支援施策の利用者及び福祉有償運送事業の利用登録者について

野田市及び社会福祉協議会が外出支援施策として実施している福祉タクシー券の交付及び福祉カー貸出事業の利用者については、平成30年4月1日現在で4,061人、さらにNPO法人による福祉有償運送事業への利用登録者が826人で合計4,887人の方の輸送手段が確保されており、対前年比は、平成29年4月1日現在で4.13%増、平成30年4月1日現在で4.31%増となっており、外出支援施策の利用者及び福祉有償運送事業の利用登録者が着実に増加していることが分かります。

【外出支援施策の利用者及び福祉有償運送事業の利用登録者】

| 区 分 | | 28年4月1日 | 29年4月1日 | 30年4月1日 |
|--------------------|------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 外出支援施策の利用 (登録)者 | 福祉タクシー券登録者 (要介護等状態) | 2,516人 | 2,640人 | 2,729人 |
| | 前年比 | | 4.93% | 3.37% |
| | 福祉タクシー券登録者 (障がい者等) | 1,133人 | 1,180人 | 1,245人 |
| | 前年比 | | 4.15% | 5.51% |
| | 福祉カー貸出利用者 | 94人 | 87人 | 87人 |
| | 前年比 | | △7.45% | 0.00% |
| | 計 (A) | 3,743人 | 3,907人 | 4,061人 |
| | 前年比 | | 4.38% | 3.94% |
| | 福祉有償運送事業 の利用登録者 (B) | 756人 | 778人 | 826人 |
| 前年比 | | 2.91% | 6.17% | |
| 合 計 (A+B) | 4,499人 | 4,685人 | 4,887人 | |
| 前年比 | | 4.13% | 4.31% | |

※外出支援施策の利用者は前年度中における利用者数を掲載

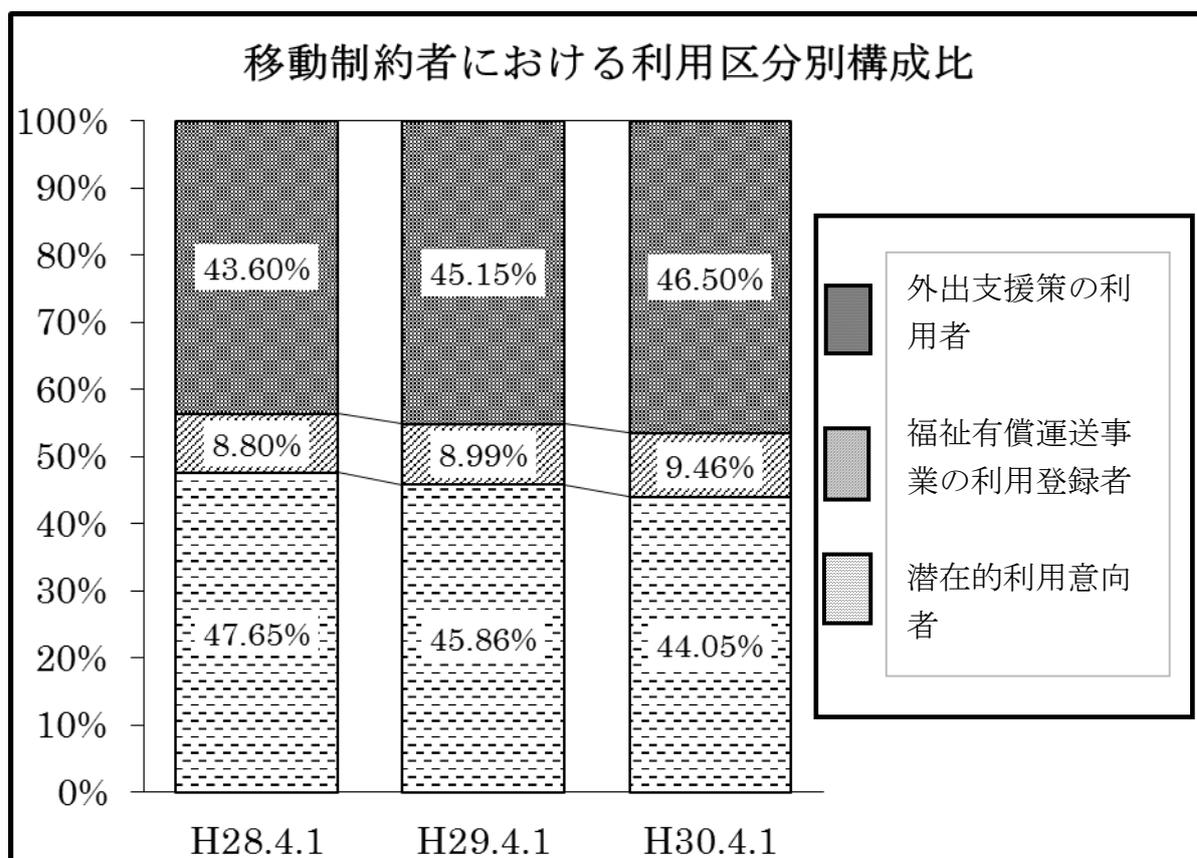
(3) 潜在的利用意向者の推移について

上記(2)で示したとおり外出支援施策の利用者及び福祉有償運送事業の利用登録者が着実に増加しており、それに伴い潜在的利用意向者(移動制約者であるが、外出支援施策の登録者でもなく、福祉有償運送事業の利用登録者にもなっていない方)も平成28年4月1日現在の4,095人から平成30年4月1日現在の3,847人と減少しております。

そうした中、移動制約者に占める潜在的利用意向者の構成比についても、平成28年4月1日現在で47.65%であったものが、平成30年4月1日現在で44.05%に減少しておりますが、依然として潜在的利用意向者が4割を超えている状況であります。

【移動制約者における潜在的利用意向者の推移】

| 区 分 | 28年4月1日 | 29年4月1日 | 30年4月1日 |
|------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 移動制約者 | 8,594人 | 8,654人 | 8,734人 |
| 外出支援施策の利用者 (再掲) | 3,743人 | 3,907人 | 4,061人 |
| 構成比 | 43.60% | 45.15% | 46.50% |
| 福祉有償運送事業 の利用登録者(再掲) | 756人 | 778人 | 826人 |
| 構成比 | 9.00% | 9.20% | 9.69% |
| 計 | 4,499人 | 4,685人 | 4,887人 |
| 構成比 | 52.35% | 54.14% | 55.95% |
| 潜在的利用意向者 | 4,095人 | 3,969人 | 3,847人 |
| 構成比 | 47.65% | 45.86% | 44.05% |



2 平成27年度から29年度における福祉有償運送事業の実施状況について

(1) 登録事業者

福祉有償運送事業者については、現在、次の事業者となっております。

| 名 称 | 初回登録年月日 | 登録期間 | 車両台数 |
|----------------|------------|--------------|--------------------------|
| NPO法人 なのはな会 | 平成18年7月12日 | 平成32年7月11日まで | 福祉車両4台 セダン等一般 車両6台 |

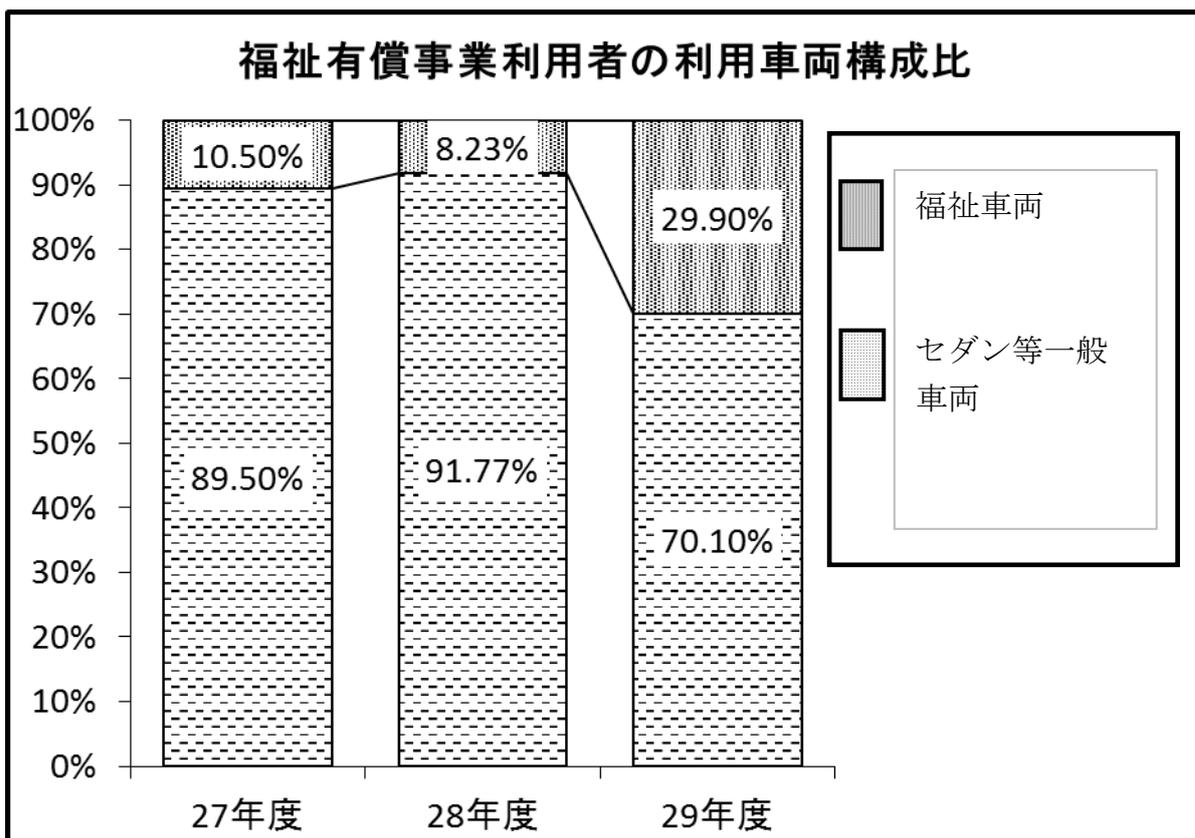
(2) 福祉有償運送事業の利用状況

平成28年度から29年度における延べ利用回数を比較すると、福祉車両で577回（増加率＝294.39%）の増加、セダン等一般車両で374回（増加率＝△17.11%）の減少となっており、全体では、203回（増加率＝8.52%）の増加となっております。また、利用車両別の構成比を見ると、セダン等一般車両の利用率が約70%を占めており、手軽に利用できるセダン等一般車両の利用意向が高いことが分かります。

また、平成27年度から平成29年度の一人当たり延べ年間利用回数を見てみると、若干の増減はあるものの、一人1か月で1回以上は利用している状況です。

【延べ利用回数及び一人当たりの延べ年間利用回数】

| 区 分 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 28-29年度比 回数（増加率） |
|--------------------|--------|--------|--------|---------------------|
| 福祉車両 | 233回 | 196回 | 773回 | 577回（294.39%） |
| セダン等一般車両 | 1,986回 | 2,186回 | 1,812回 | △374回（△17.11%） |
| 計 | 2,219回 | 2,382回 | 2,585回 | 203回（8.52%） |
| 実利用人数 | 116名 | 111名 | 147名 | — |
| 一人当たりの 延べ年間利用回数 | 19.1回 | 21.5回 | 17.6回 | △3.9回（△18.14%） |



3 近隣市における福祉有償運送事業の登録事業者等 (平成30年3月現在)

| 市名 | 福祉有償運送事業者 | | | タクシー事業者 | | |
|------|-----------|------|------|---------|------|------|
| | 事業者数 | 所有台数 | | 事業者数 | 所有台数 | |
| | | 福祉車両 | セダン等 | | 福祉車両 | セダン等 |
| 松戸市 | 4 | 9 | 52 | 11 | 14 | 505 |
| 柏市 | 10 | 10 | 44 | 10 | 1 | 368 |
| 流山市 | 6 | 9 | 104 | 3 | 0 | 51 |
| 我孫子市 | 6 | 16 | 28 | 4 | 1 | 90 |
| 鎌ヶ谷市 | 3 | 14 | 13 | 2 | 1 | 116 |
| 野田市 | 1 | 4 | 6 | 4 | 0 | 73 |

■参考

1 福祉有償運送の定義

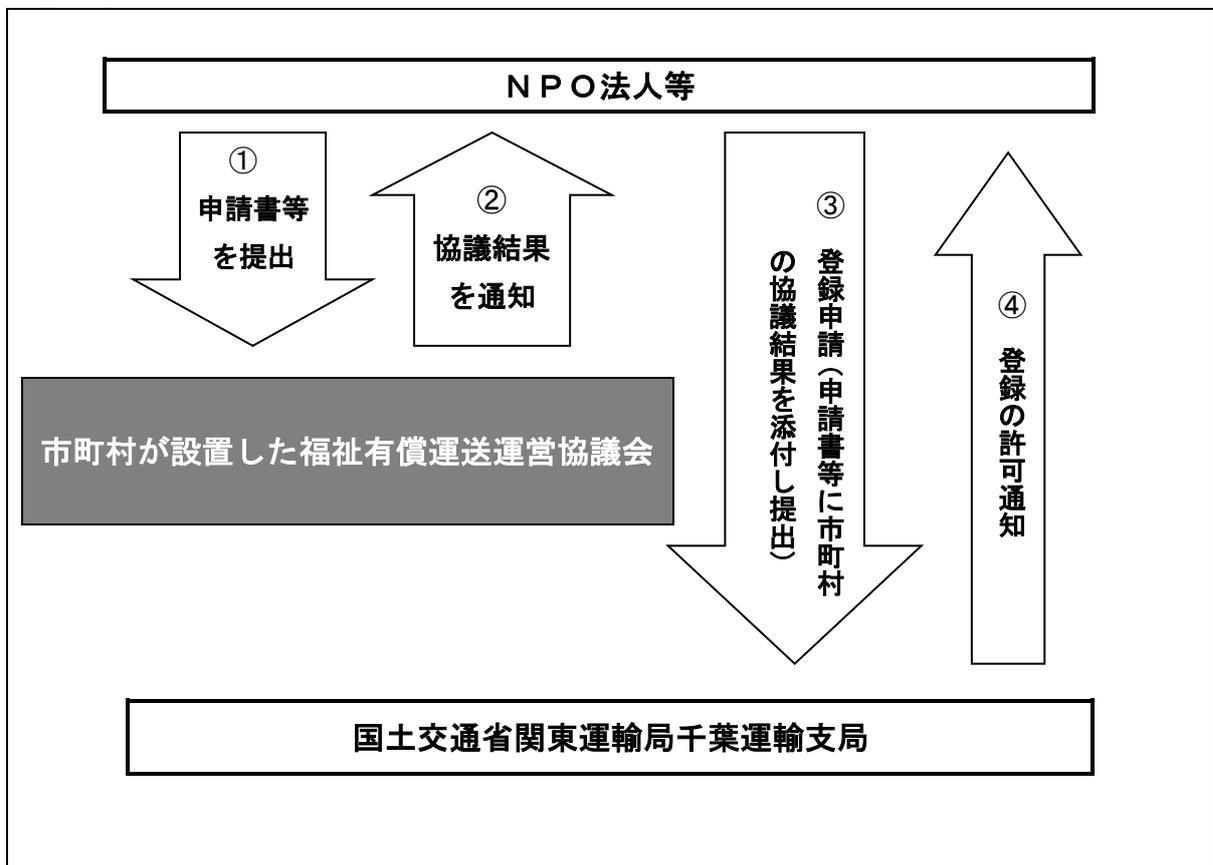
福祉有償運送とは、バス等の公共交通機関によって要介護等認定者や障がい者など、移動制約者の輸送サービスが十分に確保できないと認められた場合、NPO法人等が道路運送法第79条に基づく登録を行った上で、自家用自動車を使用して営利とは認められない対価（実費の範囲内）で当該法人等の会員の通院や通所等について個別輸送サービスを行うことをいいます。

なお、株式会社などの営利法人が有償で運送を行う場合（乗合・貸切バス、タクシー）は、道路運送法第4条（一般旅客自動車運送事業）や同法第43条（特定旅客自動車運送事業）の許可が必要となりますが、施設介護事業者（デイサービス、ショートステイの事業者を含む。）が行う要介護等認定者の送迎については、自家用輸送であることが明確である場合（ガソリン代等実費相当分のみを徴する場合も可）に限り、道路運送法に基づく許可や登録は不要となります。

2 福祉有償運送事業を実施するための手続

福祉有償運送事業を実施するに当たっては、市が設置する運営協議会においてその必要性や対価等について協議が調うことを要件としており、実施可能なNPO法人等であると認められた場合には、国土交通省運輸支局に登録を行うこととなります。

【登録までの流れ】



3 福祉有償運送事業を実施するための要件

(1) 必要性の判断

市内の輸送の現状に照らしてバス等の公共交通機関のみでは、移動制約者に対する十分な輸送サービスが確保できないと認められることが必要であり、市及び市が設置した運営協議会では、移動制約者の人数、バス等の公共交通機関及びボランティア輸送の状況等を勘案して福祉有償運送事業の必要性を判断することになります。

(2) 運転者の要件

運転者は、普通第2種免許を所持していることが必要ですが、これを所持していない場合には、普通第1種免許を所持し、過去2年間に運転免許停止処分を受けておらず、国土交通大臣が認定する福祉有償運送運転者講習会を受講していることが必要となります。

また、セダン等一般車両を運転する場合には、運転手は国土交通大臣が認定する講習会を受講した上で、さらに国土交通大臣が認定するセダン等運転者講習を修了済みであるか、介護福祉士の資格が必要となります。

(3) 登録期間

登録日からは原則2年間（更新の際、有効期間内に重大な事故がない場合等は3年）

(4) 管理運営体制

運行管理及び指揮命令、運転者に対する監督及び指導、事故発生時の対応、苦情処理に係る体制、その他安全の確保並びに利用者の利便の確保に関する体制が明確に整備されていることが必要となります。

なお、野田市では、独自に福祉有償運送運営協議会運営指針（以下「ガイドライン」とします。）を作成し、四半期ごとに運送状況を始め運行記録や利用会員名簿等の提出を求めるなど、市が運営状況を常に把握する体制を取っております。また、運転者が要介護等認定者や障がい者等の対応に精通しているとは限らないことから、福祉有償運行マニュアル（以下「運行マニュアル」とします。）も作成し、運転者の心構えや接遇などについて指導及び徹底を図っております。

(5) 運送の対象者

要介護等認定者及び身体障がい者並びにその他単独では公共交通機関の利用による移動が困難であって、あらかじめ福祉有償運送事業者にて会員登録をしている者

(6) 利用できる車両

乗車定員が11人未満の自家用自動車であること。

① 乗車車両

- ・ 車いす又はストレッチャーのためのリフト、スロープ、寝台などの特殊な設備を設けた自動車
- ・ 回転シート又はリフトアップなど乗降を容易にするための装置を設けた自動車

② セダン等一般車両（貨物運送に供する自動車を除く。）

(7) 損害賠償保険

使用車両の全てが対人無制限及び対物1,000万円以上の任意保険又は共済（搭乗者障害を対象に含むものに限る。）に加入することが必要です。

(8) 運送の対価

営利に至らない範囲（タクシーの上限運賃のおおむね1/2を目安）として運営協議会で判断します。

(9) 法令遵守

登録を受けようとするNPO法人の役員が道路運送法第7条の欠格事由に該当する者でないこと。